

貸借対照表

(平成19年2月28日現在)

(単位：千円)

| 資 産 の 部 | | 負 債 の 部 | |
|----------|-------------|--------------|-------------|
| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
| 流動資産 | (1,892,826) | 流動負債 | (2,432,579) |
| 現金及び預金 | 544,838 | 支払手形 | 45,708 |
| 受取手形 | 209,414 | 買掛金 | 399,320 |
| 売掛金 | 1,041,457 | 短期借入金 | 900,000 |
| 商品 | 159 | 一年内返済予定長期借入金 | 344,674 |
| 仕掛処理原価 | 39,267 | 未払金 | 144,067 |
| 前渡金 | 20,940 | 未払費用 | 19,458 |
| 前払費用 | 5,319 | 未払法人税等 | 203,550 |
| 繰延税金資産 | 24,065 | 未払消費税等 | 30,343 |
| その他 | 7,363 | 前受金 | 50,401 |
| 固定資産 | (3,778,054) | 預り金 | 2,585 |
| 有形固定資産 | 3,665,125 | 賞与引当金 | 12,816 |
| 建物 | 463,350 | 設備支払手形 | 279,651 |
| 構築物 | 173,781 | 固定負債 | (1,733,479) |
| 機械及び装置 | 377,068 | 長期借入金 | 1,695,665 |
| 車両運搬具 | 9,667 | 従業員退職給付引当金 | 20,383 |
| 工具器具備品 | 35,708 | 役員退職慰労引当金 | 15,162 |
| 土地 | 2,377,802 | その他 | 2,268 |
| 建設仮勘定 | 227,745 | 負債合計 | 4,166,058 |
| 無形固定資産 | 901 | 純資産の部 | |
| 水道施設利用権 | 901 | 株主資本 | (1,504,822) |
| 電話加入権 | 0 | 資本金 | 528,843 |
| 投資その他の資産 | 112,028 | 資本剰余金 | 324,356 |
| 投資有価証券 | 10,200 | 資本準備金 | 324,356 |
| 長期貸付金 | 2,407 | 利益剰余金 | 651,622 |
| 長期前払費用 | 6,630 | 利益準備金 | 1,300 |
| 保険積立金 | 44,785 | その他利益剰余金 | 650,322 |
| 繰延税金資産 | 33,296 | 繰越利益剰余金 | 650,322 |
| その他 | 14,709 | 純資産合計 | 1,504,822 |
| 資産合計 | 5,670,881 | 負債純資産合計 | 5,670,881 |

損 益 計 算 書

平成18年3月1日から
平成19年2月28日まで

(単位：千円)

| 科 目 | 金 額 |
|-------------------------|-----------|
| 売 上 高 | 5,643,143 |
| 売 上 原 価 | 4,666,643 |
| 売 上 総 利 益 | 976,499 |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 | 390,860 |
| 営 業 利 益 | 585,639 |
| 営 業 外 収 益 | 8,420 |
| 営 業 外 費 用 | 35,699 |
| 経 常 利 益 | 558,360 |
| 特 別 利 益 | |
| 固 定 資 産 売 却 益 | 4,316 |
| 特 別 損 失 | |
| 固 定 資 産 売 却 損 | 7,091 |
| 固 定 資 産 除 却 損 | 3,281 |
| 税 引 前 当 期 純 利 益 | 552,303 |
| 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税 | 246,859 |
| 法 人 税 等 調 整 額 | 19,635 |
| 当 期 純 利 益 | 325,079 |

株主資本等変動計算書

平成18年3月1日から
平成19年2月28日まで

| | 株 主 資 本 | | | | | 株主資本 合 計 |
|-------------------|---------|--------------|--------------|---------------|---------------|-------------|
| | 資本金 | 資 本 剰余金 | 利 益 剰 余 金 | | | |
| | | 資 本 準 備 金 | 利 益 準 備 金 | その他利益剰余金 | | |
| | | | | 特別償却 準 備 金 | 繰越利益 剰 余 金 | |
| 平成18年2月28日残高 (千円) | 528,843 | 324,356 | 1,300 | 225 | 330,017 | 1,184,742 |
| 事業年度中の変動額 | | | | | | |
| 特別償却準備金の取崩し(注1) | | | | 66 | 66 | |
| 特別償却準備金の取崩し(注2) | | | | 158 | 158 | |
| 役員賞与(注1) | | | | | 5,000 | 5,000 |
| 当期純利益 | | | | | 325,079 | 325,079 |
| 事業年度中の変動額合計 (千円) | - | - | - | 225 | 320,304 | 320,079 |
| 平成19年2月28日残高 (千円) | 528,843 | 324,356 | 1,300 | - | 650,322 | 1,504,822 |

- (注) 1.平成18年5月の定時株主総会における利益処分項目であります。
2.当事業年度の決算処理によるものであります。

1. 重要な会計方針に係る事項

(1) 資産の評価基準及び評価方法

| | |
|----------------------------------|-------------|
| 其他有価証券 | |
| ・ 時価のないもの | 移動平均法による原価法 |
| たな卸資産の評価基準及び評価方法 | |
| ・ 商 品 | 移動平均法による低価法 |
| ・ 仕掛処理原価 | |
| (土壌汚染処理) | 個別法による原価法 |
| (リサイクル・環境分析) | 総平均法による原価法 |

(2) 固定資産の減価償却の方法

| | |
|-------------|-----------------------------------|
| 有 形 固 定 資 産 | 定率法によっております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。 |
| 建 物 | 7～38 年 |
| 構 築 物 | 7～30 年 |
| 機 械 及 び 装 置 | 3～13 年 |
| 工 具 器 具 備 品 | 4～15 年 |
| 無 形 固 定 資 産 | 定額法によっております。 |

(3) 引当金の計上基準

| | |
|------------|---|
| 貸 倒 引 当 金 | 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。 |
| 賞 与 引 当 金 | 従業員に対して支給する賞与に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。 |
| 従業員退職給付引当金 | 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。なお、数理計算上の差異は、その発生時の翌事業年度に一括費用処理することとしております。 |
| 役員退職慰労引当金 | 役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。 |

(4) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(5) その他計算書類作成のための基本となる事項

| | |
|-----------|---|
| 消費税等の会計処理 | 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。 |
| 仕掛処理原価 | 土壌汚染調査・処理部門、リサイクル部門及び環境分析部門における処理未完了の取引において発生した原価を計上しております。 |

(6) 当事業年度より会社計算規則（平成 18 年 2 月 7 日 法務省令第 13 号）に基づき計算書類を作成しております。

(7) 会計方針の変更

（貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準）

当事業年度より「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」（企業会計基準第 5 号 平成 17 年 12 月 9 日）及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」（企業会計基準適用指針第 8 号 平成 17 年 12 月 9 日）を適用しております。

これまでの資本の部の合計に相当する金額は、1,504,822 千円であります。

（固定資産の減損に係る会計基準）

当事業年度より「固定資産の減損に係る会計基準」（「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」（企業会計審議会 平成 14 年 8 月 9 日））及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第 6 号 平成 15 年 10 月 31 日）を適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

2. 貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供している資産

| | |
|-----|--------------|
| 土 地 | 1,260,257 千円 |
| 計 | 1,260,257 千円 |

上記の物件は、一年内返済予定長期借入金 85,714 千円及び長期借入金 1,114,286 千円の担保に供しております。

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 454,564 千円

(3) 関係会社に対する金銭債権、債務は次のとおりであります。

| | |
|--------|-----------|
| 短期金銭債権 | 12,074 千円 |
| 短期金銭債務 | 834 千円 |

3. 損益計算書に関する注記

(1) 関係会社との取引高

| | |
|-----|------------|
| 売上高 | 168,495 千円 |
| 仕入高 | 27,647 千円 |

4. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当事業年度末における発行済株式の種類及び株式数

| | |
|------|----------|
| 普通株式 | 26,550 株 |
|------|----------|

5. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産の発生的主要原因別内訳

| | |
|------------|--------|
| (繰延税金資産) | (千円) |
| 未払事業税 | 15,503 |
| 賞与引当金 | 5,190 |
| 従業員退職給付引当金 | 6,851 |
| 役員退職慰労引当金 | 6,140 |
| 減価償却資産 | 19,393 |
| その他 | 4,281 |
| 繰延税金資産合計 | 57,361 |

6. リースにより使用する固定資産に関する注記

(1) リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引

貸借対照表に計上した固定資産のほか、工具器具備品及び車輛運搬具の一部についてはリース契約により使用しております。

当事業年度の末日における取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

| | 取得価額相当額 | 減価償却累計額相当額 | 期末残高相当額 |
|--------|----------|------------|---------|
| 車輛運搬具 | 13,716千円 | 5,257千円 | 8,458千円 |
| 工具器具備品 | 4,945 | 4,945 | |
| 合計 | 18,661 | 10,203 | 8,458 |

当事業年度の末日における未経過リース料相当額

未経過リース料期末残高相当額

| | |
|-------|---------|
| 1 年 内 | 2,743千円 |
| 1 年 超 | 5,715千円 |
| 合計 | 8,458千円 |

7. 関連当事者との取引に関する注記

(1) 親会社及び法人主要株主等

| 属性 | 会社等の名称 | 資本又は 出資 (円) | 金出 金万 (円) | 事業の 内容 (業 種) | 議決権 の所有 割合 (%) | 関係内容 | | 取引の内容 | 取引 金額 (千円) | 科目 | 期末 残高 (千円) |
|-----|---------|-------------------|-----------------|-----------------------|-------------------------|----------|---------------------------|-----------------------------|------------------|-----|------------------|
| | | | | | | 役員 兼任 | その他 事項 | | | | |
| 親会社 | (株)ダイセキ | 3,701 | | 産業廃 棄物 処理 | (被所有) 直接 60.5 | | 環境分析の受託、産業廃棄物処理 の受託・委託 | 処理の委託 (注)1 | 10,847 | 買掛金 | 200 |
| | | | | | | | | 環境分析・産業 廃棄物処理の 受託(注)1 | 168,495 | 売掛金 | 12,074 |
| | | | | | | | | 本社建屋等の 賃借(注)2 | 16,800 | | |

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

1. 市場価格を勘案して一般取引条件と同様に決定しております。
2. 近隣の取引実勢等に基づいて賃借料金額を決定しております。
3. 上記取引金額には、消費税は含まれておりません。

8. 退職給付に関する注記

(1) 採用している退職給付制度

当社は確定給付型の制度として適格退職年金制度及び退職一時金制度を設けており、総合設立型の厚生年金基金制度に加入しております。また、従業員の退職等に際して退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象としていない割増退職金等を支払う場合があります。

(2) 退職給付債務に関する事項

| | (千円) |
|--------------------|--------|
| イ. 退職給付債務 | 26,530 |
| ロ. 年金資産 | 10,792 |
| ハ. 未積立退職給付債務(イ+ロ) | 15,737 |
| ニ. 未認識数理計算上の差異 | 1,179 |
| ホ. 貸借対照表計上額純額(ハ+ニ) | 16,917 |
| ヘ. 前払年金費用 | 3,466 |
| ト. 退職給付引当金(ホ-ヘ) | 20,383 |

(注) 総合設立型の厚生年金基金制度に係る年金資産(給与総額比按分額)は408,109千円であり、上記年金資産には含めておりません。

(3) 退職給付費用に関する事項

| | (千円) |
|--------------------|--------|
| イ. 勤務費用(注) | 20,825 |
| ロ. 利息費用 | 425 |
| ハ. 期待運用収益 | 167 |
| ニ. 数理計算上の差異の費用処理額 | 468 |
| ホ. 退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ) | 21,552 |

(注) 総合設立型の厚生年金基金制度に係る退職給付費用及び割増退職金は、「勤務費用」に含めて計上しております。

(4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

| | |
|-------------------|--------|
| イ. 割引率 | 2.0% |
| ロ. 期待運用収益率 | 2.0% |
| ハ. 退職給付見込額の期間配分方法 | 期間定額基準 |
| ニ. 数理計算上の差異の処理年数 | 1年 |

(発生時の翌事業年度に一括費用処理することとしております。)

9. 1株当たり情報に関する注記

| | |
|----------------|------------|
| (1) 1株当たり純資産額 | 56,678円80銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 12,244円04銭 |

10. 重要な後発事象に関する注記

平成 18 年 11 月 1 日開催の取締役会において決議された大阪リサイクルセンターの建設工事が下記のとおり完了しております。

| | |
|-------|----------------------|
| 取得価額 | 881,000 千円 |
| 取得年月日 | 平成 19 年 4 月 9 日 |
| 構造 | 鉄骨平屋建及び 2 階建 |
| 面積 | 6,184 m ² |
| 処理能力 | 30 万トン/年 |